

11) 身体の異常知覚を主訴としてリエゾン外来を受診した症例について

太田 美樹・長谷川まこと
滝沢 謙二 (新潟大学精神科)
須賀 良一 (中条病院精神科)
小熊 隆夫 (白根緑ヶ丘病院)
中垣内正和 (県立療養所悠久荘)

当科リエゾン外来では、身体的基礎疾患の見つからない、あるいは身体的基礎疾患の程度に不釣り合いな身体症状の訴えについてのコンサルテーションを求められる機会が多い。今回はこの中でも身体の異常知覚を主訴としてリエゾン外来を受診した症例群を6例提示し、その特徴と対応について考察を加え、以下の事がわかった。

1. 頭部の訴えが多い。
2. 老人では器質的検査が重要である。
3. 若年者では分裂病の可能性も考える。
4. 精神科での治療関係は作りにくい。
5. 症状の身体的基盤を否定しない方がよい。

各症例の概要は次の通りである。症例1は脳が落ち、眼球がよってきた、下顎が後ろに下がり、上顎が前方に突出し、容貌が変わってしまったという具体的で奇妙な訴えであった。訴えの内容は変遷しているが、部位としては頭部に限局し、訴えについての批判力はある程度存在した。症例2は30年前から体全体、特に顔や頭に虫が這うような感じを訴えていた。症状は淋菌が頭の近くにあるせいだと確信し、他人に淋病の移るのを心配し、苦痛の訴えないことが特徴的であった。症例3は複式単純子宮全摘術の後に頭痛、足のだるさなどの不定愁訴、不眠、関係念慮とともに腹部にありが這うような感じを訴えた。腹部の異常感と卵巣の存在を結びつけて卵巣の摘出を主治医に強く要求していた。症例4は全身の皮膚がちりちりし、瘤が出来たようなぼこぼこした変な感覚があるという訴えで、訴えの異常性に対する批判力は存在した。症例5は歯肉が剝離し、魚の肉のような何か下がっているという奇妙な訴えと歯肉を挟みで切りとろうとする異常行動があり、痴呆症状も存在した。症例6は顎関節の運動障害と疼痛について執ように訴えていた。全例が治療に熱心で身体疾患であることを主張していた。過半数が医師に検査、治療を要求し、受け入れられないと容易に転科、転医をし、最終的に精神科を紹介されるという経過をとっていた。他の精神科施設に紹介した症例3と4を除いては当科での follow up を試みたが、すべて2～3回の通院で中断していた。診断は、DSM3-R では分裂病型人格障害が3例、器質性精神障害が2例、精神遅滞が1例であった。

次に転医後の歯科医と良好な治療関係を続け、症状が好転した症例1と他精神科で follow up され、多発性梗塞が確認された症例4を取り上げ、治療と当科受診後の経過について更に詳しく考察した。

12) Lobotomy の CT

大森 孝治・黒崎 孝則
奈良 謙治・横山 知行 (群馬県立佐波病院)

群馬県立佐波病院に入院している Lobotomy 後の症例を調査した。男10名、女6名、年齢は49歳から70歳、Lobotomy 施行年は昭和21年から昭和35年、診断はすべて精神分裂病であった。

症例の前頭部には4～5cm の手術痕があり、CT で Omlne から上に3cm、4cm、5cm の断面、あるいは4cm、5cm、6cm の断面で前頭葉、側脳室前角の前外側、左右に、大きいもので1×2cm の嚢胞状で髄液と同じ濃さの low density area が認められた。これは手術侵襲によってできた porencephaly と考えられた。症例によって壁の部分に石灰化がある例、左右の porencephaly の位置が上下、前後にずれていたり、大きさが異なっている例があった。同時に前頭葉の萎縮、大脳縦裂前半部の開大、脳室の拡大がある例があった。

横断面的臨床像については、医師による診察、臨床心理学的検査等で一般の分裂病像と区別がつかなかった。前頭葉症状群は不明瞭であった。

13) 精神症状を呈したガラクトシアリドーシスの1例

稲月 原・内藤 明彦 (新潟大学精神科)
小坂井鐵夫 (県立療養所悠久荘)

精神症状のため精神科を受診しその数年後に神経症状が明らかとなりガラクトシアリドーシス (GS) と診断された症例を報告する。

【症例】43歳、男性。

《家族歴》両親は従姉弟同士である。患者の同胞は7名で長兄と三兄も GS の発病者である。長兄、三兄には精神症状は認められていない。長兄の次女が躁うつ病様の症状を呈し悠久荘に通院中である。

《現病歴》小児期に精神発達遅滞はなく中学まで特に精神変調、神経症状はなかった。中学生の頃に視力低下を自覚するようになった。15才頃より精神変調を来し分裂病の疑いで治療が開始された。当時の知能は WAIS で IQ 82、神経症状は明らかでなかった。その後も時々、多弁、多動、児戯性、動揺しやすい感情状態、幻聴、幻視、幻臭などが出現し精神病院に入院を繰り返している。